

もっと知rinaさい

著者	網 明日佳
雑誌名	教育を考える一言
巻	1
ページ	2-2
発行年	2012-02
URL	http://hdl.handle.net/2241/00123763

もっと知りたい

1. 教育を考える一言

「もっと知りたい。そしてもっともっと大きくなるのです。君にもまもるにもそうする権利が与えられている。そして我々大人は、どんなことがあってもその権利を守って見せよう。」

2. 背景

柳沢教授の孫まもる（小 1）は発達がやや遅れており、母親のいつ子（教授の娘）は心配しています。ある夜、家を抜け出したまもるは、孤独を抱えて周りとは衝突する不良少年・近江（中 1）と出会います。まもるの「夜と朝の境目を見たい」「知らないことを知るのは楽しい」という純粋で生き生きとした探究心に触れ、近江の心にも「今までは知ろうともしなかった、自分の周りのもの・人のことを知りたい」という気持ちが芽生えます。そんな 2 人の交流を遠目から見ていた教授が、近江に向けて言った言葉です。

3. 考察

私は大学で、聴覚障害のある学生に対して情報保障活動（手話通訳など）をしています。始めたきっかけは、聴覚障害を持っていても熱心に自分の好きな勉強（私と同じ西洋史）を学ぶ女の子に出会ったことでした。障害を持っていても、「学びたい。知らないことを知ることは楽しい。」と思う気持ちは皆同じで、誰にでも「学び、成長する権利」があります。そういった気持ちや権利を守るために、例えば聴覚障害を持つ生徒に対しては、音声情報を視覚情報に変える工夫を、発達障害のあるまもるに対しては、答えを急かさずじっくり待つという工夫が必要になります。困難を抱える生徒にしっかり向き合い支援できる教員・大人になる…なかなか難しいことですが、教授のこの力強い言葉が私を支えてくれる気がします。



引用文献

山下和美「第 142 話 夜と朝の間で」『天才柳沢教授の生活』第 18 巻、p107、講談社、2002 年